

鹿児島城下諏訪神社祭礼の練物風流と太鼓踊り

福原敏男

The Refined Processions and Drum Dances of the Festivals of Suwa Jinja Shrine in Kagoshima

はじめに

- ① 薩摩地方の太鼓踊りの特色
- ② 研究史
- ③ 鹿児島城下諏訪神社祭礼
- ④ 画像資料の検討と参加地域の伝承
- ⑤ 画像資料の太鼓と徳重の大バラ太鼓踊り
- ⑥ 練物と太鼓踊り
おわりに

【黒文紙面】

鹿児島県薩摩地方における民俗芸能について、分布上特徴的であるのは太鼓踊りである。姿形、踊りの隊形、踊り手が背負う装飾、踊る時期など、多種多様かつ複雑である。大局的にみると、姿形や踊りの形式は、西日本各地の風流系太鼓踊りと共通している。芸能史的には、京都周辺において「歌謡が未発達で囃子詞中心の拍物」から、「長編の物語歌や組歌形式の小歌をうたう風流踊り（太鼓踊り）」へ発達したものと考えられている。薩摩地方における太鼓踊りの特色は、先学諸氏が指摘しているように、諏訪（南方）神社への奉納太鼓踊りに顯著にみられる。薩摩地方における諸諏訪神社の太鼓踊りの伝播と定着に大きな影響を与えたのが、鹿児島城下諏訪神社への太鼓踊り奉納であろう。

本稿は近世後期の鹿児島城下諏訪神社祭礼において、近郷百姓による太鼓踊りがどのように奉納されたかについて検討するため、「薩摩国諏訪社祭礼練物図」（東京国

立博物館蔵）を紹介する。これは、七月の御射山祭礼において、谷山や桜島をはじめとする鹿児島近郊の村落が、十数日にわたりて次々と太鼓踊りを諏訪神社や周辺の寺に奉納した百姓踊りを描いたものである。すでに伝承は途絶えて久しいが、從来この踊りの画像資料としては『倭文麻環』と『薩摩風土記』所載図が知られている。本稿においてはこれに加えて、『薩摩国諏訪社祭礼練物図』を検討した結果、能などの趣向の練物が太鼓踊りを先導したことを指摘した。また、大太鼓が詳細に描かれており、伊集院町徳重の妙円寺詣における太鼓と酷似していることから、徳重と同様に、音を開くよりも「巨大さを見る太鼓踊り」であったと思われること、同祭礼の太鼓踊りは大太鼓と矢旗（踊り手が背負う装飾）の「形象の風流」を楽しむものであったと結論づけた。